

羅針盤

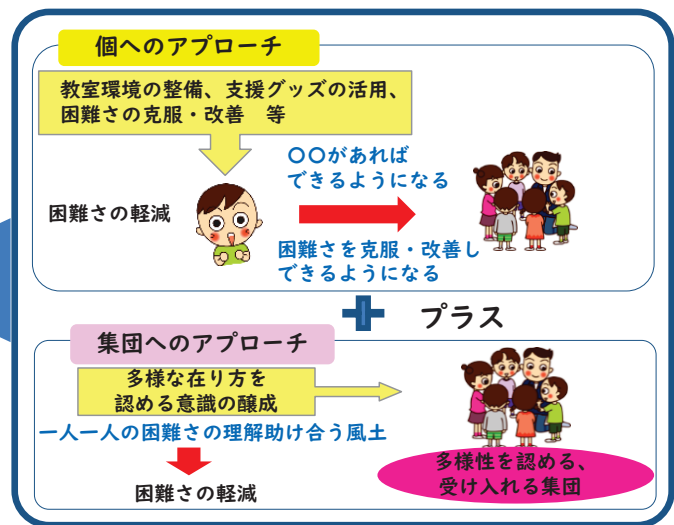
「共生社会の担い手」の育成に関する研究 ～多様性を認め合う集団づくりを中心に～

現在、国際社会において「共生社会の形成」が目指されています。国際的にも障害の捉え方が、「医学モデル」から「社会モデル」へと転換され、多様性を前提とした社会の在り方がより一層重視されるようになってきています。これから向かう共生社会が、人々の多様な在り方を相互に認め合える社会であることを考えると学校教育の場においても「多様性を認め合うこと」がキーワードとなっています。

教育支援部では、2年間の研究として、共生社会の形成に向けて、通常の学級における「多様性を認め合う集団づくり」を中心とした実践をブックレットにまとめました。今回の羅針盤では、その実践を進める上でのポイントを紹介いたします。

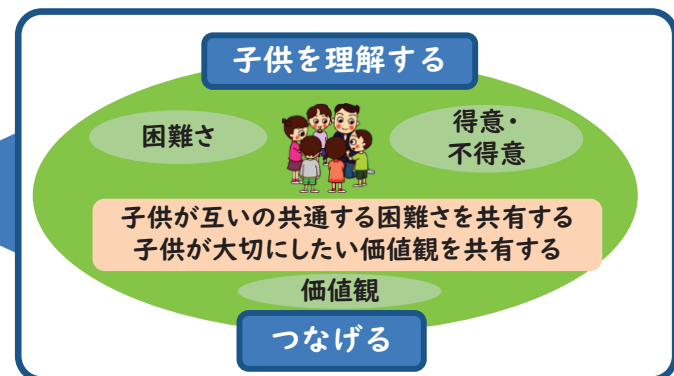
「個へのアプローチ」と「集団へのアプローチ」

「共生社会の形成」を考えると、これまでの特別支援教育で大切にしてきた個の困難さに応じた指導・支援（教室環境の整備、支援グッズの活用、困難さの克服・改善等）の視点だけでなく、集団の考え方や価値観が「多様性を認め合う」ものであることが重要になります。そのような意識を醸成するためにも、集団へアプローチしていく必要があります。ポイントは、多様性を認め合う集団づくりを通して、一人一人の困難さの軽減を図ろうという視点です。



「子供を理解する」「つなげる」

「多様性を認め合う集団づくり」を行う際にも、まずは、教師が「子供を理解する」ことが不可欠です。その上で、教師の働きかけにより、子供が互いの困難さを共有し、自分事として考えることが大切です。また、「多様性を認め合う集団づくり」を支える上で大切な価値観について教師と子供が考え、一人一人の納得を積み重ねることで、子供同士をつなげていくことが大切です。



このブックレットでは、共生社会の形成に向けて学校教育で大切にすべきことを示した＜理論編＞とその理論に基づいた指導の実践を紹介した＜実践編＞で構成しています。ニーズに応じて、必要なページを開いてご活用ください。

＜実践編＞では、第2章で通常の学級における「多様性を認め合う集団づくり」、第3章で「通級指導教室と通常の学級との連携」、第4章で「交流及び共同学習の在り方」について具体的な取組を示しています。自分の担当する学びの場はもちろんのこと、他の学びの場の実践もご覧いただき参考にしてください。

